事業所自己評価シート

令和５年度

職員による自己評価

Ａ環境面

・児童の成長につれて、訓練室が手狭に感じる

・強度行動障害の診断をされている児童もいるので、しっかりしたクールダウンスペースが欲しい。

・事務所の整理整頓が出来ていない

・冬場になると駐車場までの道が暗く、危険度が増す。

・事業所の近くに車を停車させ、児童の移動をする場面があるが、長時間置いておけず、室内のスタッフ人数が一時的に少なくなる場面がある。

Ｂ児童への支援内容

・朝礼や終礼で共有事項を話し合い、申し送りノートに記載、全員共通認識を持って支援に入れるよう注意している。

・活動内容によって、職員配置や、環境整備を行っている。

・児童特性により、対応できる職員が限られてきてしまっている。(特に強度行動障害児童が不安定になった際の対応)

Ｃ関係機関との連携

・管理者、児発管は地域連絡会などに参加。

・連絡会で得た情報は職員に共有している。

・地域事業所職員向けの研修などには、参加している。

Ｄ保護者への説明責任・信頼関係

・送迎の際には、偏りのないように送迎を回し、職員全員が顔を見せれるようにしている。

・事故や怪我があった際は速やかに管理者への報連相、保護者様への連絡を速やかに行うよう指導している。

・管理者不在時のトラブルに関しては、管理者の動ける最短で謝罪、改善を行うようにしている。

Ｅ非常対応

・避難訓練を年に２回行っているが、実際に起きたらを想定した訓練が出来ていない。

→職員、児童が全員で避難

→送迎時に災害が起きたら　等

・送迎車の不備が目立つ為、車輌担当者を決め、清掃、備品、状況確認を行っている。

保護者による評価

Ａ環境面

・児童の過ごすスペースが狭く感じる。

・クールダウンスペースが欲しい

・自宅送迎の時間帯が前日もしくは朝１などで分かるような仕組みがあると良い。

Ｂ児童への支援内容

・職員みんなが子供の特性をよく理解し対応してくれていると感じる。

・送迎時の引継ぎが丁寧。

・様々なレクを考えてくれていて、有難い。

Ｃ事業所からの情報発信

・月一で発行されている新聞は子供も楽しみにしており、一緒に見ている。利用日以外の活動もしれて楽しい。

・ブログでの発信が楽しみ。

・行事計画書があると、子供にも事前に共有出来、見通しも持てるのでありがたい。

Ｄ非常対応

・事故、ケガなどの緊急対応の連絡が遅い。

・避難訓練をやっているのは知っている。

・送迎時の事故の際、対応に追われているのはわかるが、保護者への説明が遅い。

・避難訓練でヘルメットや、非常食など、家ではチャレンジできないような物事にチャレンジしてくれている。

・職員間での情報共有がどのようにされているのかきになる。

【共通点】
・訓練室の手狭さ、クールダダウンスペースの確保については、毎年共通項として上がっている。
・イベント内容については、職員が考えたものについて理解を頂けており、児童含め保護者様も楽しみにしてくれている。
【相違点】
・非常時対応について、職員と保護者様の間で認識の違いを感じます。
・地域で仕入れた情報の発信が乏しく、保護者様に還元されていない。

事業所内での分析

事業所の強み

・おかれた環境下で、出来る事、可能性がある事を話し合い、チャレンジする力がある。
・長く務める職員が多く、児童の特性理解と支援方法の引き出しがある。

事業所の改善点

・緊急時の対応フローチャートなど、誰が、いつその状況になったとしても対応できる環境作り。
・事業所、送迎車などの衛生管理。
・長く務めている職員だからこその過信や思い込みがある。

事業所の改善への取り組み

・緊急時対応(事故・けが・災害)など様々な場面を想定したフローチャートの作成、及び周知。
・報連相の徹底、徹底するにはどうしたらよいか、徹底出来る仕組み作り。
・避難訓練はリアルを想定し、指導員、児童が全員避難が出来るよう、改善をしていく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

開所して８年が経ちました。これまでたくさんの方々に利用して頂き、卒業生もたくさん見てきました。改めて、小学校就学時～高校卒業までの多感な時期のお子様たちを支援する事の難しさ、重要性を感じています。また、2023 年は高校卒業後の事を考える事も多く、保護者様より様々な質問や不安点などをお聞きする機会も多かったです。『児童１人１人に寄り添い出来る事を増やす』を目標に、卒業までに１つでも多く出来る事を増やし、得意を見つけ可能性を伸ばしていけるよう職員一丸となって支援して参ります。

事業所名　　ライズ児童デイサービスやこう幸

担当者　鈴木 まどか